

⑰Alun-alun Lor

人文社会科学部 2 年

概要

アルン・アルン・ロールはクラトンのすぐ北側に位置する大きな広場であり、アルン・アルンウ・タラと呼ばれることもある。ロールはジャワ語、ウタラはインドネシア語であるが意味はどちらも「北」である。アルンはジャワ語で「波」を意味し、スルタンに謁見を求めて人々が波のように押し寄せる様子からこう呼ばれるようになったと言われている。クラトン近くにある大モスク、クラトン、そしてこのアルン・アルン・ロールの順に作られた。



このアルン・アルン・ロール、クラトン、そして南の広場を結ぶ南北の軸は「ジョグジャカルタ哲学軸」と呼ばれ、2023 年にユネスコ世界遺産に登録された。

聖なる木

この広場はかつて壁で囲まれていた。

広場の端にはブリンギンという聖なる木が 1 列に植えられ、その中央に柵が施された王室の神聖さを象徴する 2 本のブリンギンの木がある。

この二本のブリンギンはキヤイ・デワダル (Kyai Dewadaru) とキヤイ・ジャナダル (Kyai Janadaru) と名付けられており、王と民の結びつきや人間と神の出会いを象徴している。ジャワの宇宙観では、王宮が世界の中心 (プセリング・ジャガド) とされ、北の広場にある 2 本のブリンギンの木はその中心軸を象徴している。この中心を通行できるのは、神と世界をつなぐ唯一の存在であるスルタンとスルタンに次ぐ王子だけだと考えられていた。

また、スルタンが2本のブリンギンの木の間を通ることは、その支配の正当性を視覚的に示すものであった。これにより、民衆はスルタンの権威と神聖な役割を再認識させられていた。

また、伝説として、ブリンギンには敵を退ける効果があり、邪悪なものが間を通ると力が失われると考えられていた。このことからスルタンは邪悪な力を退けることが出来る存在としても認識されていた。



2つの広場

多くの都市ではこのような広場は1つであるが、ジョグジャカルタでは2つ広場がある。海の神ニヤイ・ロロ・キドゥルに対して、王宮の正面を意識させるために用意されたのが、海に近い南側のアルン・アルン・キドゥルだと言われている。

使われ方

アルン・アルン・ロールは、かつてより王宮の複合体の一部として式典や宗教的催事の会場に使用されていたが、今日、北アルン・アルン広場は、演奏会や集会ならびにイスラムの休日の催しや地元のサッカーなどさまざまな日常的行事の場所にもなっており、地元住民の憩いの場となっている。

まとめ

一見ただの広場に見えるこの場所だが、調べていくと古くから王宮の儀式や宗教的催事が行われている、歴史と伝統が確かに積み重なっている場所であることが分かった。聖なる場所である一方、現在では市民の憩いの場としても活用され、人々の生活に世界遺産が溶け込んでいることを実感できた。